

宇都宮市立宝木小学校第6学年児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができる」という設問に対する肯定的回答は、全国平均よりも3.5ポイント高い。話を聞く学習習慣が身に付いている。

○「学校のきまりを守っていますか」という設問に対する肯定的回答は、全国平均よりも4.7ポイント高い。きまりや約束事に対して、真摯な態度が見られる。

○「人の気持ちが分かる人間になりたい」「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」という設問に対する肯定的回答は、それぞれ全国平均よりも6.5ポイント、2.1ポイント高い。他の人を思いやる気持ちをもっていることがよく表れている。

○「読書は好きですか」という設問に対する肯定的回答は、全国平均よりも7.4ポイント高い。朝の読書や読み聞かせなどの日々の読書活動が定着し、意欲喚起につながっている様子が見られる。

●「普段、(月～金曜日)1日当たりどれくらいの時間、テレビゲーム(コンピューターゲーム、携帯式のゲーム、携帯電話やスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか」という設問に対して、「4時間以上」と答えた児童が全国平均を3.4ポイント、「3時間以上」と答えた児童が全国平均よりも1ポイント高い。放課後の過ごし方を家庭と連携して考えていきたい。

●「家で、学校の授業の予習をしていますか」「家で、学校の授業の復習をしていますか」に対して、否定的回答をした児童は、「予習」が全国平均よりも5.2ポイント、県平均よりも12.0ポイント高い。また、「復習」が全国平均よりも3.7ポイント、県平均よりも13.3ポイント高い。学習内容の定着のために自ら予習、復習を行う姿勢を身に付けさせる必要がある。「学習の手引き」を活用していきたい。

●「400字詰め原稿用紙を2～3枚の感想文や説明文を書くことは難しいと思いますか」という設問に対して、「そう思う」と答えた児童は、全国平均よりも3.2ポイント高い。文章を書くことに対して苦手意識をもっている。作文指導の充実を図ってきたい。